

令和2年度 第3回学校評議員会議事録

日時 令和3年3月12日（金） 午後6時～午後7時

場所 平山中学校被服室

学校評議員

氏 名	職 種 等
松岡 敬明	十文字学園女子大学教授
白木 靖寛	平山三丁目自治会顧問
寶木 甲臣	P T A会長
松本 ちづ子	保護司
根津 美満子	主任児童委員
大濱 成江	平山中地区青少年育成会会長
田村 義公	日野市地域学校協働活動推進事業 地域コーディネーター

1 校長挨拶及び2教育活動の取組について

コロナについては、緊急事態宣言があると「感染症対策等を講じてもなお、感染のリスクが高いことから行わないようにする」ということになっている。例として、「音楽における室内で、児童生徒が近距離で行う合唱などは行わないようにする」ことになっていて、音楽の授業では歌っていない状況である。合唱祭は明日に延期しており、緊急事態宣言の解除を期待していたが再度の延長となってしまった。合唱連盟が出している根拠を基に、マスクをして距離を開けて行えば合唱を行ってもよいと、教育委員会から言われ、何とか実施でできるようになった。授業では体をたたいて表現するボディーカッションというものを考えて行ってきたので、音楽祭と名前を変えて、合唱とともに発表することとなった。生徒は同学年の生徒のみが体育館に入り、他学年は教室で画像をリモートで見えるようにした。保護者は入れられないので、音声だけをスマホなどで聞けるように配信する。教員は大変であるが、子供たちのために何とか実施できるように頑張っている。子供たちは、本当によくやっている。クラスの練習では、密にならない様に全員前を向いてハミングで合唱の音を取っている。非常に涙ぐましい練習をしている。

卒業式は歌えないので、手話で歌を行うことにしている。卒業式の後に外に出て歌を歌うことができるので、在校生とともにセレモニーを行うことにしている。保護者は2名までで、来賓の方はなしで行うことになった。

受験については、ほぼ終わっている。都立の推薦受験は面接と作文などがある。合格率は5割まではいかなかったが高いい結果となった。面接では部活動、生徒会活動、ボランティア活動での活躍について聞かれることが多い。社会に出たときにそのような活躍をすることが求められることからである。校長と副校長とで全員面接練習を行ったが、体育祭は行えたので活躍の場があって成長したことが聞かれた。それが受験にも評価され、何とか工夫して活躍の場を作っていくことは、改めて大切だと感じた。

来年度については、新入生の予定数が120人で、中一ギャップというシステムで教員が一人配置され、4クラス体制で行くことになった。また、来年度開校40周年となり、大々的にはできないが10月23日、土曜部に式典を開催する予定である。

3 学級経営重点計画の評価について

(1) からだを育てる力の向上

(校長)「意欲的に参加する生徒はともかく、そうではない生徒の「積極的な運動への取組」について、具体的にどのような方策があるのでしょうか？」という質問をいただいた。全員参加のものは体育の授業の運動量を増やすことや体育祭で行っている。校内マラソン大会を行うことなども考えられるが、授業時数確保のため行ってはいない。

運動が苦手な子のみを指導することは、運動嫌いを進めることにもつながるので行ってないが、朝ランは苦手な子も走っている。周りの方から応援していただけるとやりがいを感じられてありがたい。また、全体が動けば苦手な子もそれに影響されて動くことがある。例えば合唱祭では、本校では歌が苦手な子もしっかり歌っている。運動だけでなく、やればできることを様々な場面で設定していきたい。体力は、少しずつ向上している。

(校長) 緊急事態宣言が再延長となり放課後の活動として運動を1時間程度行った。生徒が密や接触がないように教員がしっかりついて管理し、筋トレやシュートなどできるものだけ行った。再延長となってからは、部活動を1時間程度行っている。生徒の様子はすごく違い、校長室前を通る会話が生き生きしている。3年生も受験が終わり、参加できるようになった。

(校長) 本校では、来年度、部活を活性化するために、毎週木曜日を時程を工夫して、放課後の時間を30分確保する。部活動ではないが、その時間に自学自習をして先生に聞くことができるようなことも考えている。

(2) 学ぶ力の向上①

(校長)「共通の項目から教科の壁を越えて協議できるとよいと思います。というご意見をいただいた。この2年間、学習評価について研修に取り組んだ。来年度から3つの観点のABCの評価を行い、5・4・3・2・1の評定を付けることになる。今後は、評価の他、ユニバーサルデザインを取り入れた教育として障害の有無にかかわらず全ての人に分かりやすいように、教育環境や指導方法を統一することも研究テーマとして挙がっている。

(校長)「教育のデジタル化をどのように進めるかは大きな課題であろう。先進的成果をあげている事例を精査し、当校の実情に見合った施策を着実に進めていただきたい。」というご意見をいただいている。全普通教室に65インチのモニターを設置しているところである。デジタル教科書を全教科購入し、映像動画など視覚的に分かりやすいものをたくさん使うことができる。これまで話し合い活動をホワイトボードにまとめて、貼り出したりしていたことが、モニターで見ることができるようになる。ゲストティーチャーとのオンライン授業なども行えたらと思うと思う。

また、1人1台のタブレットパソコンが今週入った。調べ学習、各自の学習速度に合わせた問題演習、宿題の提出と自動採点など様々な使い方ができるが、家庭でのリモート授業もできるようになる。

(校長)「校内研究会のテーマを是非、公開前の早い段階で周知していただけるとありがたいです(興味があります。)」というご意見をいただいている。来年度は、年度初めの評議員会でお知らせできると思う。

(松本) タブレットパソコンは生徒全員に配られ、先生たちは全部指導できる状態なのか。

(副校長) 現在研修中である。

(松本) 全教科ではなく一部か。

(副校長) 全教科である。全教科の教員がタブレットを使って授業ができるようにしていく。

(松本) 4月からすぐスタートということではないか。

(副校長) 徐々に進めていくことになる。得意な教員は4月から取り組んでいける。

(松本) 小学校は進んでいるが、中学校は初めてであるか。

(校長) パソコン室にはタブレットが入っていて、使い方については技術・家庭科の時間の学習内容に入っているの、生徒はある程度使うことはできる。教員は研修をしていかなければならない。市としては、1学期は準備をして、9月ごろから本格的に使えるようにするとのことである。

(大濱) タブレットを使うと、鉛筆で書くことがなくなるのか。

(校長) なくなることはないと思うが、打ち込むことは増えるかもしれない。宿題は、紙で行ったものを写真で取って送るということが多いようである。ただ、英語のテストは話したことをタブレットを使って採点するようなことも行われるので増えていくかもしれない。問題集も自分のペースで進むことができ、自動で採点できるので、テストもそのような形になっていくかもしれない。

(田村) タブレットは持ち帰らせることができえるのか。

(校長) 基本的にできると思います。今はそこまでの話は聞いていないが、持ち帰ると宿題ができるし、家庭への連絡をしたりもできる。ただ、Wi-Fiの接続ができないと使えないので、ルーターを貸し出すような整備をしていくと思われる。

(田村) 教科書自体もタブレットに入ってしまったら、本を持って歩くようなことも無くなる可能はあるか。

(校長) 将来的にはあると思う。教員用のデジタル教科書はあるが、子供に一人ずつデジタル教科書を支給するだけの予算はないので、教科書は紙になる。

(白木) 書く能力が心配である。どんどん漢字を忘れていく。タブレットでばっかりやらせていると書けなくなってしまう。そのバランスがものすごく大事だと思っている。デジタルというのはどこに価値を見出してやるのかを十分考えてやってほしい。まずは書くことをしっかり続けさせないとすぐ書けなくなるので心配している。

(校長) 全く書かないようになることはないと思う。書くことはしっかりやっていく必要はあると考えている。

(3) 学ぶ力の向上②

(校長)「外部指導員等の活用を図るといいと思います。」、という意見をいただいている。現在、コーディネイターの田村さんを中心に毎週水曜日の放課後に平中YBAを行っている。教員経験者や、本校で授業をしている講師の先生方も参加してもらっていて、来年度の人材も確保していきたいと思う。

現在、外部指導員は吹奏楽とバスケットボール部にいて、コーチとして教えてもらっている。それとは別に、日野市では外部の方が顧問となり、土日の練習や引率も行える指導者を試験的に配置している。本校では、日野自動車卓球部から、専門家を呼んで指導を受けることになっていたが、コロナの関係で都合が合わなかった。ゆくゆくは、部活動をやりたい人は尊重し、教員の負担を感じる教員に対して指導員を配置していく方向で動いている。

(4) 豊かな人間性の育成①

(校長)「活動そのものはたいへん価値があると思います。ただし、企画・立案・調整・実施をすべて教員が担っていくのは、教員にとって過重負担になります。コーディネイター役を担える外部人材の活用を図っていくことが必要でしょう。」という意見をいただいている。本来「地域学校協働本部」という組織を作り、コーディネイターが中心となって地域と学校を結び付けることになっている。職場や人材をさがしてもらうことなどができるとよいのだが、中学校は予算はないようである。

少しでも、地域の方と子供たちが触れ合って成長していくことができるよう、地域の方を守るための防災訓練を進めている。育成会にもお世話になっている。

ちなみに、コミュニティースクールを令和4年度まで全校設置するとのことである。

(5) 豊かな人間性の育成②

(校長)「私自身、校長時代は、地域と協力して学校が避難所となった場合を想定して、生徒と地域の方々が同時に参加する防災宿泊訓練を実施し、たいへん成果を上げたと思っています。今後の事を考えると災害に関する準備は非常に大切だと思います。今はコロナで集まれませんが、収束したら体育館に一晩宿泊し避難所体験を行うなど、交流も行えるし、良いのではないのでしょうか。」というご意見をいただいている。ゆくゆくは、宿泊ができればいいと思う。とりあえず、生徒が知識を持ち自分で判断して共助ができるよう、避難者役の方を招待して避難所設置訓練ができればと考えている。地域の方と触れ合う体験は大変貴重なものと考えている。今年度は中止となったが、来年度は10月9日(土)に予定している。

(6) 安全・安心の充実①

(校長)「現在の支援体制を一層充実発展させてください。経年変化を分析し、どの程度成果を上げているのか、明確にしていけることが必要でしょう。」というご意見をいただいている。分析を進めていきたいと思う。

来年度は、学校と家庭の連携推進事業として支援員を配置する。登校時の家庭訪問、保護者への相談などを行っていただくのだが、評議員の松本さんに週1回程度ということをお願いしている。

(校長)「教員の取組指標の結果に対し、生徒の成果指標が少し低い気がする。」というご意見をいただいている。

ステップ教室を利用していない生徒は、あまり意識していないのかもしれない。

(7) 安全・安心の充実②

(校長)「いじめの早期発見は、『教員の観察力』が重要です。同じ実態を見ていても、『観ている教員』と『(ただ)見ていない教員』では、いじめの発見に遅れが生じることがあります。教員間で、日常的な生徒に関する情報交換・情報共有が極めて重要です。」というご意見をいただいている。本校では週1回、支援委員会という不登校傾向の生徒についての情報共有や対応について協議を行っている。いじめについても、情報共有や対応について確認している。いじめのアンケートには、「友達がいじめられているようなところを見た。」ということが出てくるが、社会通念上のみんなで意地悪するようなことはあまりない。1年生がSNSを使って誹謗中傷をしたことがあり、指導をしている。

コロナ陽性反応者は出ていない。出たとしても生徒たちに欠席理由を知らせたりはしないが、欠席したことについて詮索することは、人権的によくないことであることを伝えている。欠席していた生徒が復帰したときに、人権的に問題のある行動は見られなかった。これから増えていくと思われるので、引き続き友達のことを配慮していくように指導していく。

(白木) コロナ関連に関してのいじめのことだが、濃厚接触者や陽性者が出て来た場合その子供をどう受け入れるのかという教育はしているのか。どういう時間帯に行っているか。

(校長) している。国や市からその点を注意するよう通知はよく来ていて、朝礼や今学期の始業式でも全校に伝えた。また、コロナの話題は朝の打合せで非常に多くあり、その度にこういう生徒がいるので人権に配慮しつつクラスで伝えるように示唆したり、各クラスの様子は支援委員会で挙がってくるので、若手の教員にはこうした方が良くなどと伝えるなどして組織的な対応をしている。本校の生徒は、素直で茶化したりすることは見えない。

(副校長) そこが、今の生徒の偉いところで、こちらが思っているより思いやりがある。

(田村) 平中の伝統である。友達の生い立ちとか家庭環境などを意識しないし、人権などは触れないようにすることもできる。これが平山小や平山中の文化であり、昔からそうである。この文化を壊さないようにしていければと思う。今年は、手探りの状態で休校や分散登校があり、距離を置くなど今までやったことのないことばかりで、評価はどうしたものかと思った。そのような中でよくやって来られたと評価している。大きな事故や事件もなくここまでたどり着けたのはたいしたものである。この経験を運営に生かしてほしい。

(副校長) 地域や教育委員会がバックアップをしてくれていることがあるので紹介する。医療従事者に応援のメッセージを送るという取り組みがあった。60人くらいが書いて送ったら、それを受け取ったある病院から非常に感謝され、学校にお礼の色紙が届いた。3年生の受験に際して医師会が応援してくれるという話も出ている。また、市P協から子供たちへ応援のメッセージが、たくさんの保護者から届いている。これらのことが、生徒の思いやりの心を育てることにつながっていると感じている。

4 その他

(白木) ワクチンを教員が優先的にするという話はあるか。

(校長) 日野市は65歳以上の方に供給されると書いてあったが、教員に対してはない。学校ではほとんどクラスターが起きていないからかもしれない。教員や子供たちのワクチンはまだ先のようなのである。

(校長) 今年度は変更などがあったが、3回行わせていただいた。1年間ありがとうございました。いただいたご意見を学校経営に生かしていく。来年度についてもよろしくお願いします。